



君待つと—万葉・古今・新古今 夏草—「おくのほろ道」から  
教科書に登場する漢字の書き

送り仮名を正しく書き、漢字に直しましょう。

① 下駄の <b>はな</b> お <small>を</small> 上げる ( 鼻緒 )	
② 富士山麓にある <b>べっ</b> そう ( 別荘 )	
③ <b>まん</b> ようしゅう ( 万葉集 )	
④ <b>こ</b> きん <small>和歌集</small> ( 古今 )	
⑤ <b>しん</b> こきん <small>和歌集</small> ( 新古今 )	
⑥ 真っ白な <b>ころも</b> が干されている ( 衣 )	
⑦ 後ろを <b>ふり</b> 返る ( 振り )	
⑧ 月が西に <b>かたむ</b> く ( 傾く )	
⑨ あなたを <b>こい</b> しく思う ( 恋しく )	
⑩ 高く <b>とう</b> とい 富士の高嶺 ( 高い )	
⑪ <b>て</b> おりの布 ( 手織り )	
⑫ <b>むす</b> め <small>が布を洗う</small> ( 娘 )	
⑬ <b>や</b> なぎの木陰 ( 柳 )	
□ <b>しよ</b> せんから優勢が続く ( 緒戦 )	
□ <b>しよ</b> せん <small>もともとは「緒戦」という言葉しかなかったが、今では最初の戦いという意味で用いる。</small> で敗退した ( 初戦 )	
□ <b>じよ</b> うち <small>何かの作用によって味わいのある雰囲気や気分が誘われる。／情動。一時的な感情の動き。</small> よ豊かな町並み ( 情緒 )	